

D 十二支の石探しと社寺をめぐるコース



1 山田神社
 本殿は一間社流造り(市有形文化財)で、けやきの彫刻が素晴らしい。梵鐘(4代目)は、神仏混淆時代の名残り。250メートルの長い参道には、桜並木、狛犬、織竿などがあり、風情が見所。



2 清林寺
 本堂の前にある山椿は古木で見事。他にも名木として指定された樹齢約250年の白樫や銀杏の木がある。2007年に本尊である聖観音菩薩が市の有形文化財に指定された。



3 昔の尾根みち
 中川中学校から中川小学校に至る一部道幅の狭い道は、両側が崖になっている昔からの尾根道。ところどころうっそうとした樹林や竹林の道を歩くと、港北ニュータウンに残る自然の豊かさを感じられる。



4 龍福寺
 早瀬川の勝田橋より見上げた高所に位置し、女坂の桜並木の開花期には訪れる人が多い。境内からの見晴らしもよく、また、古木指定樹の樺があり、里山の古寺のたたずまいを残している。



5 古梅地藏堂
 徳川時代の末期、林述斎が中心となり編纂された新編武蔵風土記稿にも記載されている由緒ある地藏堂。中には延命地藏菩薩と子育て地藏菩薩の2体のお地藏様が安置されている。



6 大善寺
 開創年は天和元年(1681)以前で、名木樹齢370年を超える樺が残る。浄土宗のこの寺では新しい試みとして、平成8年(1996)、境内で甘茶を栽培し、仏教の開祖、お釈迦様の灌仏会(花祭り)を復活させ、甘茶寺を目指している。



7 十二支の石
 ふじやとのみち(約2.5km)を時計回りに概ね等間隔に十二支の石を配置している。石は福島県三春町の自然玉石(青銅石)で、穴を開けて飛んできた種が根付く植木鉢にした。戊だけは鉄製で、城山歩道橋の欄干わきの親柱の上に、設置されている。



8 徳生公園
 大きな円形の池にはあづまやがある。周囲は緑豊かな樹林が残され、さらに背後に高層マンションが建ち並び、自然と共存する港北ニュータウンの特徴的な景観。



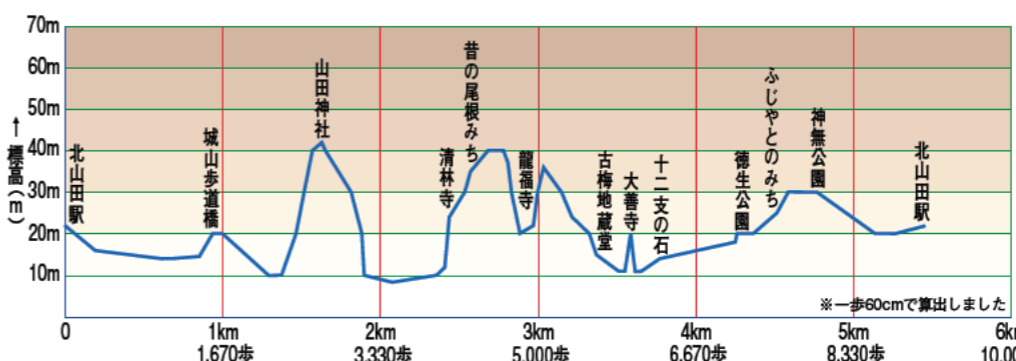
9 ふじやとのみち
 「徳生公園」「神無公園」「山田富士公園」を通り、山田神社方向に続く道。丘陵をうねるように走る緑道には十二支の文字を彫った石のモニュメントが置かれている。



10 神無公園
 古くはコム谷と呼ばれ、崖地の多い地形の険しい場所につけられた地名。神無(カム・コム)の字を当ててシンナシと呼び方を変えたといわれる。



虫送り
 7月の土用入りした最初の土曜日の夕方に行われる伝統行事で、戦前は田んぼのある農村では、どこでも広く行われていた。現在、横浜ではほとんど行われていないが、今でも南山田町内会虫送り行事保存会により、山田神社を起点に行われており、市の無形文化財に指定されている。もともとはウンカやズイ虫など稲を食い荒らす害虫を村の外に追放して、豊作を祈る行事である。



十二支の石
 十二支の石が置かれている「ふじやとのみち」は、港北ニュータウンで最初に整備された緑道で、途中には橋・トンネル・公園等があり、緑道の目印となっている。しかし、約2.5kmと延長が長く、利用者にわかりづらかったため、十二支にちなんだ石をほぼ等間隔に時計回りに設置して、道しるべとした。